

Economic Indicators

発表日: 2020年9月11日(金)

企業物価指数(2020年8月)

～国内企業物価は持ち直しが続くもペースは鈍化、先行きは横ばい圏での推移に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

(単位: %)

		国内企業物価				最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前期比※	前年比	前年比 (消費税除く)	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2019	8月	▲0.2	▲0.3	▲0.9	▲0.9	▲0.3	▲0.7	▲0.3	▲0.7	▲1.3	▲5.8	▲0.6	▲8.5
	9月	0.0	0.0	▲1.1	▲1.1	0.1	▲0.8	0.0	▲0.9	0.0	▲6.2	▲0.8	▲9.7
	10月	1.1	1.4	▲0.4	▲1.9	▲0.5	▲2.0	1.2	▲0.1	0.3	▲6.3	0.4	▲10.8
	11月	0.1	0.1	0.1	▲1.4	0.1	▲1.2	0.1	0.3	0.3	▲6.0	0.2	▲11.3
	12月	0.2	0.2	0.9	▲0.7	0.4	0.1	0.1	0.9	0.0	▲4.4	1.1	▲6.6
2020	1月	0.0	0.0	1.5	0.0	▲0.2	0.5	0.1	1.5	0.4	▲1.4	0.5	▲0.8
	2月	▲0.4	▲0.4	0.7	▲0.9	▲0.4	▲0.3	▲0.4	0.8	0.1	▲2.2	0.1	▲1.8
	3月	▲0.9	▲0.9	▲0.5	▲2.0	▲0.9	▲1.5	▲0.8	▲0.3	▲2.3	▲5.1	▲4.8	▲7.8
	4月	▲1.6	▲1.6	▲2.5	▲3.9	▲1.5	▲3.7	▲1.5	▲2.1	▲1.0	▲6.5	▲5.9	▲13.5
	5月	▲0.5	▲0.5	▲2.8	▲4.2	▲0.5	▲4.2	▲0.4	▲2.4	▲1.3	▲6.5	▲5.9	▲18.2
	6月	0.7	0.7	▲1.6	▲3.2	0.8	▲2.9	0.5	▲1.5	0.8	▲4.1	0.8	▲15.9
	7月	0.6	0.3	▲0.9	▲2.5	0.4	▲2.5	0.5	▲0.9	0.7	▲3.2	2.0	▲12.6
	8月	0.2	0.3	▲0.5	▲2.1	0.4	▲1.8	0.2	0.0	0.4	▲1.5	1.2	▲10.9

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

※は夏季電力料金調整後の値。

○ 国内企業物価は前月比で3か月連続の上昇も、持ち直しのペースは鈍化

8月の国内企業物価は前月比+0.2% (コンセンサス: 同+0.2%、レンジ: 同+0.1%~+0.4%)、前年比▲0.5% (コンセンサス: 同▲0.5%、レンジ: 同▲0.9%~▲0.3%) と、コンセンサス通りの結果となった。また、消費税を除いた場合でみると前年比▲2.1%となった。

前月比で内訳をみると、原油価格や銅価格の上昇を背景に石油・石炭製品が前月比+4.3% (寄与度: +0.23%pt)、非鉄金属が同+2.7% (同: +0.07%pt) と上昇が続いた。また、中国などの需要の持ち直しからスクラップ類が同+4.1% (同: +0.02%pt) と7月から上昇に転じている。一方、過去の原油価格の下落の影響による燃料費の低下を受け、電力・都市ガス・水道が同▲0.9% (同: ▲0.06%pt) と減少している。8月の国内企業物価は、各国での経済活動再開が進んだことによる商品市況の持ち直しにより、前月比で3か月連続の上昇となった。もっとも、商品市況の持ち直しのペースが鈍化したことにより、国内企業物価の上昇幅も7月から鈍化した。先行きについては、横ばい圏での推移が続くと予想している。

輸入物価指数は契約通貨ベースでは前月比+1.7% (前年比▲11.3%)、円ベースでは同+1.2% (同▲10.9%) となった。商品市況の上昇を背景に、契約通貨ベースで石油・石炭・天然ガスが同+5.4% (寄与度: +1.14%pt)、金属・同製品が同+4.0% (同: +0.47%pt) と上昇したことで、契約通貨ベース、円ベースともに前月比で上昇、前年比での下げ幅を縮小させた。先行きについては、原油価格の上昇が一服していることなどから、持ち直しのペースは鈍化するとみている。

○ 需要段階別・用途別指数は商品市況の持ち直しを受け、前月比で上昇が続く

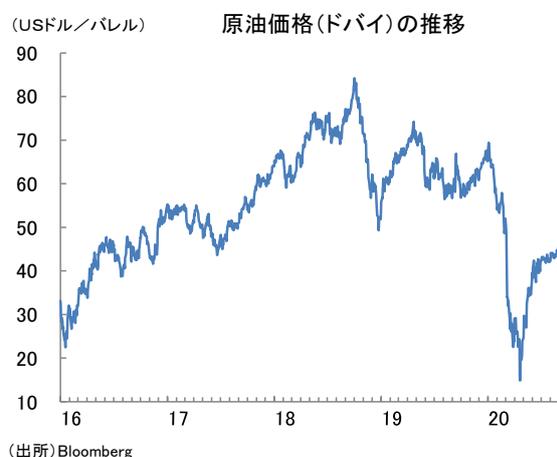
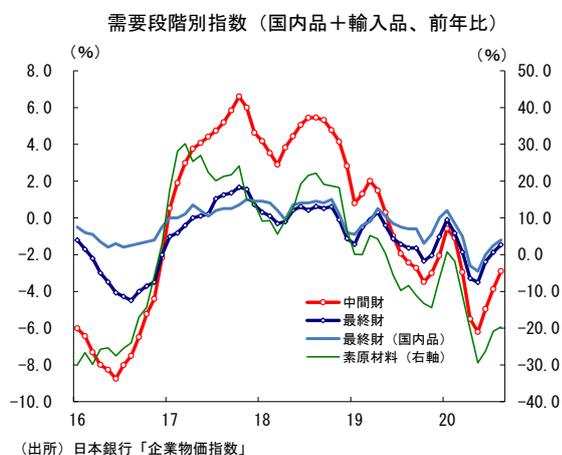
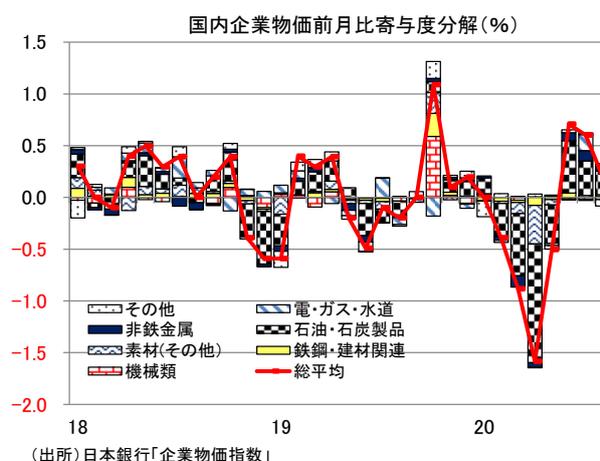
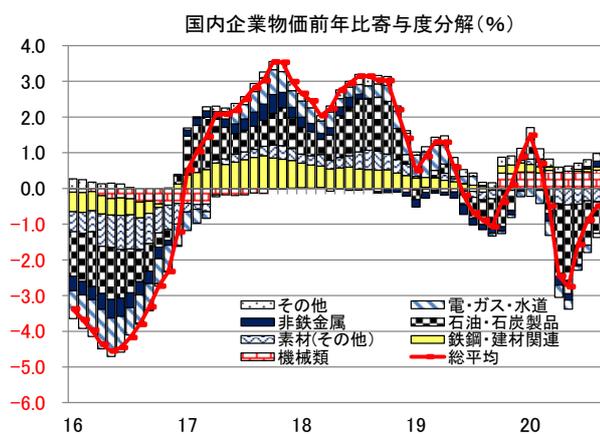
需要段階別・用途別指数（国内品＋輸入品）をみると、素原材料は前月比＋2.4%（前年比▲19.7%）、中間財は同＋0.4%（同▲2.9%）、最終財は同＋0.1%（同▲1.5%）となった。また、消費者物価との関連の深い消費財の国内品は同＋0.4%（同▲1.8%）となった。商品市況の持ち直しを背景に、素原材料を中心に持ち直しが続いている。今後については、足下で原油価格の持ち直しが一服していることから、持ち直しのペースは限定的なものとなるだろう。

○ 国内企業物価の持ち直しは一服、先行きは横ばい圏での推移に

8月の国内企業物価は、各国での経済活動再開を受けた商品市況の持ち直しを主因に、前月比で3か月連続の上昇、前年比でマイナス幅を縮小させた。

9月については国内企業物価の持ち直しは一服し、前月比で横ばい圏での推移になるとみている。持ち直しの主因となった商品市況については、銅価格が高値圏で推移している一方、足下で原油価格（ドバイ）は40ドル程度となるなど、原油価格の上昇は一服している。また、景気が大幅に悪化したことにより、需給バランスの改善による国内企業物価の持ち直しも困難だろう。

世界的に経済活動への制限は続き、世界経済の持ち直しは緩やかなものにとどまる見込みであることから、国内企業物価の順調な持ち直しは見込みがたい。また、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は続くなど、先行き不透明な状況は今後も続く見通しだ。国内企業物価の持ち直しは一服し、先行きは消費税を除いたベースで前年比▲2%程度での推移が続くと予想する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。